

JSID きさらぎ塾応募用紙

日本研究皮膚科学会では、全国より熱意ある有望な研究に携わる若手皮膚科医を集い、将来の日本・国際研究皮膚科学を担う人材を養成することを主旨として、2019年 2月14日（木）から16日（土）までの3日間ホテル日航アリビラ(沖縄)を会場に、JSIDきさらぎ塾を開催します。若手の皆さんの参加を、お待ちしております。

応募用紙の記載に当たっては、シラバス作成時に使用しますので、下記に挙げる項目について、次ページの見本を参考に、A4一枚に入るように9フォントを使用してWordファイル（フォント:本文は明朝体、タイトルはゴシック）で作成してください。書式、写真が規定から逸脱した場合には、選考対象から外れることがあります。

また、きさらぎ塾では応募書類の中から最も優れたものに「JSIDきさらぎ応募賞」を選出します。応募賞に選出された塾生の応募書類は次年度募集の際の見本として用いさせていただきます。

前は、東京大学の宮川卓也先生が受賞されました。宮川先生の応募書類を見本として添付します。

【応募者情報】 応募用紙見本を参照し、ページ上部に写真と応募者情報を配置し、枠線で囲う。
顔写真（白黒、画質の鮮明な写真 幅4cm×高さ5cm、350dpi程度）

注意：写真は応募用紙貼り付けの他に、別途提出。ファイル形式はJPEG、ファイル名は氏名とする。

英文氏名

氏名

ミドルネーム（あなたを端的に表すと思うものを考えてください。笑いがとれるもの、塾生同士が親しみを感じられるような遊び心があるものを選びましょう。例えば、なるなる、ジェシカ、じろりあん、とっちー、など）

趣味

所属および役職

職場住所

職場 TEL・FAX

E-mail

略歴

【志望動機・皮膚科医として目指す夢】

将来の研究皮膚科学会を担う研究に携わる若手皮膚科医の育成を目的とする「きさらぎ塾」の参加者選考に際しては、この項目を最も評価したいと思います。

【演題】

英語による研究プレゼンテーションとポスター展示をします。その際に発表する演題名を記載してください。抄録については、【背景】【結果】【考察】などに分けて記載してください。なお、応募用紙を用いてきさらぎ塾のシラバスを作成します。シラバスは全国の大学皮膚科学教室およびJSIDの協賛企業に配布する予定です。記載される内容について、ご注意ください。

また、これまでに発表した論文、研究皮膚科学会での学会発表などから主要なものを選定し、自己PRのために別紙として添付して頂いても構いません。研究皮膚科学会での学会発表に関しては、プレナリー、口頭発表、ポスターの別も記載し、応募者本人には下線を付してください（なお、この項目は選考の際にはあくまでも参考に留め、研究業績がないことを理由に参加を制限することはありません）。

応募書類〆切： 2018年8月31日（金）

応募書式送付先：日本研究皮膚科学会(JSID)事務局 JSID きさらぎ塾 応募選考担当者 office2@jsid.org

応募用紙、顔写真、および指導教授の推薦状〔様式1〕をそれぞれ別ファイルとしてメールに添付して送付してください。メール送付時のタイトルは、「JSID きさらぎ塾応募（氏名）」としてください。なお、本応募用紙は、日本研究皮膚科学会のホームページからダウンロードすることができます。

http://www.jsid.org/educational_programs/application_kisaragi.html

2月の沖縄で、大学皮膚科あるいは皮膚科研究を魅力あるものにしたいと思い描く若手研究者の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

[様式 1]

応募書類とは別ファイルとし、PDF ファイルをメール添付でお送り下さい。

日本研究皮膚科学会(JSID)事務局

JSID きさらぎ塾 応募選考担当者 宛

指導教授 推薦状	<p>この度の日本研究皮膚科学会（JSID）が主催する研究に携わる若手皮膚科医育成のための「きさらぎ塾」への参加応募に際して、応募者がそれにふさわしい人物であることを推薦します。</p> <p style="text-align: right;">平成 年 月 日</p> <p>応募者氏名： 所属：</p> <p>指導教授氏名（自署）： _____ 印</p>
---------------------	---

コメント：



Takuya (Pharaoh) Miyagawa

宮川 “ファラオ” 卓也

趣味 手術、テニス観戦

東京大学大学院医学系研究科・医学部 皮膚科 大学院生

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 TEL: 03-3815-5411

FAX: 03-3814-1503 E-mail: MIYAGAWAT-DER@h.u-tokyo.ac.jp

平成 18 年 東京大学医学部卒業、同愛記念病院/東大病院 初期研修

東大病院 後期研修、その後、虎の門病院医員、東大病院助教を経て、

平成 27 年 東京大学大学院医学系研究科 入学

【志望動機・皮膚科医として目指す夢】

私の夢は魔法使いになることである。写真とこの一文で多くの人が逃げていきそうだが、真面目にそう思っている。医師を職業に選んだのも、病をなかったことのできるって魔法みたいだなと思って選んだ。皮膚科はその中でも通好みなところ、初めて見た皮弁の手術が魔法のようであったこと、などが魅力であった。また学習塾でファラオとあだ名がついた小学生の頃、初めて行った皮膚科で、しわくちゃのおばあちゃん先生にモクモクと煙が出る液体を何度も足に当てられ、皮膚科=魔女のイメージがあったのかもしれない。とにもかくにも皮膚科に入局した私は、臨床技量を上げるために尽力することとした。目の前の患者さんの対処が一通りできるようになってきた時に、ふと限界に気づいた。自分が直接見る患者さんは治せるが、その数は有限であると。そこから大学院に入って研究を始めた。研究の魅力は全く見たことがない患者さんにも応用できること、つまり無限の可能性にあると思う。ただ、研究も一人であれこれ考えているだけでは限界がある。様々な人と関わることで可能性はさらに広がると思う。それが応募動機であり、今後私が見えるもの見えないもの全てを治す魔法使いになるのに繋がると思うのである。

【演題】脂肪細胞における転写因子 Fli1 の恒常的発現低下が全身性強皮症の病態に及ぼす影響

【背景と目的】全身性強皮症 (SSc) は皮膚や内臓諸臓器の線維化と血管障害を特徴とし、その発症には免疫異常の関与が示唆されている。その病態は完全には解明されていないが、転写因子 Fli1 が SSc の病態形成に深く関わる因子であると考えられている。これまで我々は表皮細胞、血管内皮細胞、線維芽細胞、マクロファージをはじめとした様々な細胞において転写因子 Fli1 の発現低下が SSc の病態を誘導することを明らかにしてきた。また近年 SSc の主要病態に様々な adipokine の発現異常が関与している可能性が示唆されており、本研究では脂肪細胞に着目した。脂肪細胞特異的 Fli1 ノックアウトマウス (*Fli1* AdipoKO マウス) を作成し、同マウスにおいて SSc の病態が再現されるかを検討した。本研究により SSc における脂肪細胞の役割が明らかになることを期待する。

【結果と結論】3ヶ月齢の *Fli1* AdipoKO マウスでは線維化が自然発症した。コラーゲン量の定量で有意な増加が見られ、組織中の筋線維芽細胞の数も有意に増加していた。 α SMA と perilipin による二重染色では真皮深層で二重に染まる細胞が増えており、adipocyte-myofibroblast transition が確認され、線維化を起す機序の一つと考えられた。また3ヶ月齢の *Fli1* AdipoKO マウスでは、FITC-dextran や evans blue による評価で、血管の構造異常、機能異常が確認された。Matrigel plug assay にて脈管形成能の低下及び未熟な脈管の形成が見られ、さらに骨髄間葉系幹細胞の m-RNA 発現量の比較では、 α SMA の有意な低下及び *Rgs5* の有意な上昇といった SSc 様の変化が確認でき、*Fli1* AdipoKO マウスでは骨髄由来の脈管形成に異常があると考えられた。これらの結果より、転写因子 Fli1 の発現が低下した脂肪細胞が SSc の線維化及び血管障害に関与している可能性が示唆された。